小家、技・家の教育情報誌

KAIRYUDO

KGK ジャーナル

技術分野

小学校家庭

家庭分野

2023 / 通巻412号
Vol.58-3

特集 多様性を尊重する教育

Contents

教育点描		10年後になくなるべきブランド	Aki	2
多様性を尊重する教育 Q&A				3
特　集		多様性を尊重する教育	半澤 嘉博	4
教育の目	技	技術分野で作り手として多様性に配慮する考え方と工夫	福谷 遼太	6
	家	生活変革者を育てる家庭科	森田 美佐	8
実践事例	小家	パネルシアターで学ぶ家族の多様性	齋藤 麻由子	10
	技	生徒と教員 二つの視点から多様性の尊重について考える	森 剛徳	12
	家	これまでの授業を「多様性」という視点でとらえ直してみる	筧 敏子	14
インフォメーション				16

QRコードから、冊子の詳細を見ることができます！

本資料は
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

開隆堂

KGK 教育点描

10年後になくなるべきブランド

Aki（アキ） PLASTICITY ファウンダー・クリエイター

英国リーズ大学を卒業後、日本の企業への就職を経て、次第に幼い頃から好きだったものづくりの仕事に興味を抱くようになる。鞄職人との偶然の出会いをきっかけに、バッグ製作の専門学校に入学する。環境、動物、人に優しいファッションへの関心を形にするべく、2019年、在学中にPLASTICITYを立ち上げて以降その活動を続ける。

不要なものを欲しいものに

2019年、廃棄されたビニール傘をバッグに生まれ変わらせるプロジェクト、「PLASTICITY」を専門学校の友人と始めました。

私はイギリスの大学を卒業後、日本の企業に就職したものの職場環境や作業に違和感を感じ、会社に行けなくなってしまいました。自宅で過ごす日々、クローゼットに眠っていたスカートをリメイクしてバッグを作ろうと思い立ちました。それは自分にとって、モノを作っている時間が一番楽しいと気づかせてくれました。

当時、ちょうど「SDGs」という言葉が聞かれ始め、大量生産、大量廃棄するファッション業界や畜産業が生み出す様々な問題をドキュメンタリー番組で知るようになった時期でもありました。豊かな生活を求めることが、見えないところであらゆる人、動物、環境に負荷をかけていることを想像し、モノを買うときはより慎重になりました。動物実験がされていないもの、古着を選ぶこと、過剰包装を避けるなど次第に自分なりの「消費者」としての基準ができていきました。

そんなとき自分の求めるバッグを探していたところ、日本には生産が生み出す「負荷」に配慮した商品が非常に少ないと感じました。「環境になるべくやさしいバッグを作る」を目標に、バッグ製作の学校に通うことにしました。

しかし、「環境にやさしい」素材とは何なのか。動物を使わない人工物なのか、土に還る動物性のものなのか。あれこれ探して素材屋さんにいってもピンとくるものはなく、求めているものはそもそも新しく生産される素材ではないと気づきました。

既に世に出回っているもので、一度役目を果たして不要とされる素材はないか。そんな時思い出したのが、ある日ニュースで観た廃棄ビニール傘でした。異素材が組み合わされていて、分解もしにくいため、不燃物として埋め立て処分されることがほとんどだと知りました。また、そのゴミが海外に輸出されているという事も。消費者としてなにげなく購入し、捨てているものが、自分たちの手には負えない問題につながっていることにショックを受け、その映像は頭の片隅に残っていました。

自分たちが出したゴミを、生まれ変わらせて、再び私たちの生活の中に取り戻せたら。ファッションを楽しみながらも、ゴミが回収できる！そんなアイデアを友人に話すと、面白いと言ってくれて、プロジェクトがスタートしました。そこからは試行錯誤しながら素材開発やコンセプトを考える日々が続きました。

「PLASTIC」の問題を抱える「CITY」で生まれたブランドの目標は、「10年後になくなるべきブランド」、素材が手に入らなくなる日がくること。PLASTICITYという単語にはプラスチックの特性である「可塑性」、「柔軟性」という意味もあります。「PLASTICITY」という言葉に倣い、時代や環境の変化に合わせて形を変えていける存在でありたいという想いが込められています。

多様性を尊重する教育 Q&A

“多様性を尊重する教育”ってよく言われるけど…

多様性を尊重する教育がなぜ、求められているの？

多様性の尊重が目指すもの

- 誰もが安心して暮らせる社会
- 個が活かされる社会

年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、一人一人の個性を活かし、能力を発揮して活躍し、誰もが安心して暮らせる社会を実現するために必要な教育です。一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を力とし、新たな価値を生み出し、予測不能な社会に主体的に対応していくことが期待されます。多様性のテーマは幅広く一層の推進が求められます。

学習指導要領では、どのように示されているかな？

●教育に関係する多様性の事象

(1) 障がいのある児童生徒への対応
(2) 外国人児童生徒への対応
(3) 学力・能力差への対応
(4) 児童生徒の体質（アレルギー等）への対応
(5) 家庭の問題への対応
(6) 学校教育になじめない児童生徒への対応　等

- インクルーシブ教育システムとして人間の多様性の尊重等
- 学びに向かう力・人間性等として、多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力
- グローバル社会の中で、思想や思考の多様性の理解、多様な国や地域の文化理解を通じて多様性の尊重や国際平和に寄与する態度
- 指導方法の不断の見直しとして、子どもの発達段階や発達の特性、学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容や場面に応じた方法の工夫や実践
- 評価において、総括的評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じた学習過程における形成的評価
- 家庭科では、異なる家族や生活様式、文化、幼児や高齢者との関わりなど多様な生き方を知り、異なる視点や意見を尊重する学び
- 技術分野では、異なる文化や地域での技術開発や製品の利用、ユニバーサルデザインなど、異なるニーズや視点を理解し多様なユーザーに対応する学び

多様なニーズにどう対応すればいいの？

「みんなちがって　みんないい」

一人の人間にはいくつもの側面があり、それが「個の多様性」です。社会は「個の多様性」がお互いに関係性をもつことで形成されます。家庭や地域、職場、趣味の会など「関係性の多様性」で成立します。まずは、自分自身の「個の多様性」を認め尊重することです。そして、誰にでも社会の中の役割があり、存在する価値があるという考え方にたつことで、互いの多様性が尊重されるようになると思います。

お互いに認め合うための配慮や考え方、行動を促すための取り組み

- 子どもの多様性に配慮した教育を行う
- 多様な見方や考え方に気づかせる
- 集団の中でお互いを尊重し合う態度や行動を育む

誰もがよさと強みを持っているよ

誰でも意見を言っていいんだよ、言う権利があるんだ

子どもたちの自己肯定感や主体性、社会参画の意識を高めたい

多様性を活かしたグループ活動等を通して学び合えるようにしたいな

「多様性が新たな力をうむ」教育

KGK 特集

多様性を尊重する教育

半澤 嘉博（はんざわ よしひろ）
東京家政大学児童学部初等教育学科長・教授
東京都八王子市の公立小学校教師を経て、東京都教育委員会指導主事、世田谷区教育委員会指導主事、都立特別支援学校教頭、都教職員研修センター統括指導主事、都教委主任指導主事、特別支援学校教育担当課長などを歴任。2008（平成 20）年から東京家政大学で教員養成に従事。社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会監事等も務める。

1 ダイバーシティ教育の重要性

ここ数年の AI 技術の急速な進歩や社会のグローバル化、また新型コロナウイルス感染の拡大、国際紛争の勃発など、予測困難な出来事が日本の教育にも大きな影響を与えた。その中でも最も大きな影響は、学校内での一斉指導に基づく一律の教育方法や内容だけでは、授業や学級の運営がうまくいかなくなってきたことだ。このため、将来の学校教育では「令和の日本型学校教育」で示されている個別最適な学びや協働的な学びを積極的に取り入れていく必要がある。さらに「次期教育振興基本計画」（2023 ～ 2027 年度）の基本方針等に示されている「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を目指す教育に変えていくことが求められている。

このような教育の大転換の中で特に重要なのは、多様な人々が共存し、よりよい社会を築くために、個性の違いを尊重し受け入れていく心情や態度を醸成する教育を推進していくことである。これが多様性尊重の「ダイバーシティ教育」である。このダイバーシティ教育の推進により、児童生徒は異なる文化的背景や経験、意見をもつ人々を受け入れ、幅広い視点やアイデアを共有し、互いに協力し合うことで、異なる考えやアプローチが交わり、さまざまな課題解決が可能となる。

また、ダイバーシティ教育は、すべての児童生徒に公平な学習機会を提供することを通じて、誰もが自信をもって学習に参加できるようにする。さらに、国際的なコミュニケーション能力の向上や、相互理解や共感の促進、異文化間の対話能力の発展も期待されている。

2 教科指導でのダイバーシティ教育

（1）各教科での取り扱いの原則

各教科の指導においては、特に以下の三つの視点からの授業改善が求められる。

① 児童生徒の多様性を理解する
② 多様な教材教具を用いる
③ 自分らしく学べる環境をつくる

（2）算数・数学での取り扱いの工夫

図 1 に算数・数学の授業でのダ

授業改善の工夫	具体的な対応例
異なる学習スタイルへの対応	・口頭での説明やグループ活動等、学習スタイルに合わせた指導を取り入れる
文化的な背景や経験の尊重	・さまざまな文化的な視点や実生活の例を取り入れ、他の児童生徒の考え方も理解できるようにする
言語的なサポート	・授業で示す語彙や記号の意味を丁寧に説明する他、翻訳ツールや図形を活用する
個別の学習ニーズへの対応	・個別の学習ニーズがある児童生徒には進度や難易度を個別に調整する ・特別な教育ニーズがある児童生徒にはタブレット等を活用し補助教材や個別のサポートを提供して学習環境を整える。教材の活字の大きさや字体を変えるだけで効果的な場合もある
ジェンダー平等の促進	・男女の児童生徒が平等に活動したり、発言したりする機会を設ける

図 1　算数・数学におけるダイバーシティ教育の取り扱い例

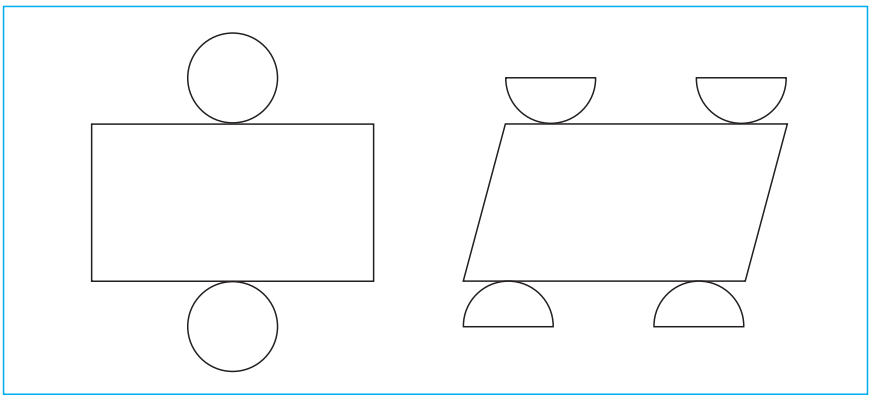


図２　円柱の展開図の例

イバーシティ教育の視点からの授業改善の工夫の具体的な対応例をまとめた。

児童生徒の多様な考えや発想を大事にした授業を行う例としては、小学５年の算数の立方体（円柱）の授業がある。展開図の指導では、図２のようにいろいろな展開図のパターンを考えさせることができる。

この学習は、基本的には辺の長さや円の直径等に基づき展開図を描いていく学習だが、その展開図のパターンは無限にある。協働的な学びで幅広い視点とアイデアを取り入れることができ、思考力を広げたり深めたりできる。

（３）特別の教科道徳での取り扱いの工夫

学習指導要領では、特別の教科道徳における学習としても「物事を多面的・多角的に考える」視点が重視されているが、これがダイバーシティ教育とも深く関連している。授業の展開においては、単に教科書の事例を通しての議論ではなく、実際に一人ひとりの児童生徒が、多様な人々との交流や生活体験を通して、自分自身の意識の変容を自覚できるようにしていくことが重要である。

また、さまざまな内容項目を指導する際に、常にマイノリティの価値観と権利も擁護していく視点が重要だ。例えば小学校５・６年や中学校での他の人とのかかわりに関する内容項目としての「寛容・謙虚」において、自分とは立場や状況が異なる人々との違いを受け入れ、互いに認め合う配慮や実践を話し合っていく授業等が考えられる。人間一人ひとりの個性を神経学的差異と捉え、お互いの違いを認識するとともに尊重していくことが重要であると石川准（元静岡県立大学教授）も指摘しているが、ダイバーシティ教育の推進には欠かせない視点である。さらに、無意識のバイアスや同調圧力の存在にも気づかせ、心の中の葛藤を想像することができる授業にしていく配慮や工夫も大切である。

3 学級経営でのダイバーシティ教育

教科学習だけでなく、学級経営においてもダイバーシティ教育の視点からの取り組みが大切だ。

特に、特別活動の領域としては、さまざまな人々との交流や体験活動の展開が重要となる。特別支援教育の視点からの交流及び共同学習では、障がいのある児童生徒との継続的なかかわりを通して、出来ないことや苦手なことのみに目を向けさせるのではなく、自分自身や他者の多様性を理解し、互いに尊重し合える関係性に気づき、それぞれの個性を生かし、協力して学ぶことのメリットを実感させることが大切である。また、生徒指導に関しては、改訂された生徒指導提要において多様性の尊重の視点からの具体的な取り組み例が多く示されている。それらを参考に、さらにSDGsの実現に向けて、ジェンダー、多文化共生、障がい等をキーワードとしたダイバーシティ教育の展開が重要である。

生命誌研究者である中村桂子（JT 生命誌研究館名誉館長）は、一つの価値観の中で多様な人間や生き物を比較したり優劣をつけたりすることの無意味さを強調している。児童生徒の発達段階に即した平等や公平についての学習の大切さを改めて考えさせられる。

読者の先生方にも、ぜひ、ダイバーシティ教育を通して、自分とは異なる存在や考えに多く触れ、「共存」の意味を考え、自分自身の物の見方や思考を広げていく学びの大切さを児童生徒に伝えていってほしいと願っている。

＜引用・参考文献＞
石川准「多様性の社会学」静岡県立大学　石川准教授最終講義、2022.2.3
中村桂子「生きている不思議を見つめて」藤原書店、2021

◀ Web 版はこちらへ

KGK 技術分野 教育の目

技術分野で作り手として多様性に配慮する考え方と工夫

1 はじめに

技術分野で行われる製作・制作活動は、さまざまな利用者の存在を意識しながら進める点で「多様性の尊重」ともかかわりがある。計画・設計や評価・改善の過程で多様性に配慮させることで、生徒の多様性を尊重する意識を育めると考えられる。さらに、作り手として向き合うことで、例えば身の回りの物に込められた多様性配慮のための工夫に気づく力や、より多くの人が平等に扱えるよう自分なりに考える力など、新たな見方で技術を評価・改善する力を養うことにもつながる。

そこで本稿では、まず、作り手として多様性に配慮する考え方を整理する。そして、アプリケーション開発を一例に、多様性配慮について技術分野の中で生徒に向き合わせる工夫について検討する。

2 作り手として多様性を尊重する考え方

作り手の多様性を尊重する意識を高める考え方としては「ユニバーサルデザイン」が広く知られているが、近年は「インクルーシブデザイン」という言葉が普及しつつある。ユニバーサルデザインは「できるだけ多くの人々が利用できるように設計する」という考え方である。

一方、インクルーシブデザインは「従来の設計の過程では対象から排除されてきた人々が扱えるように設計する」という考え方である。すなわち、ユニバーサルデザインに比べて、インクルーシブデザインのほうが多様性を尊重する考えがより強調されたものであるといえる。

3 アプリケーションにおける多様性を尊重する考え方

Web サイト等のアプリケーションについて、サービスとしての良し悪しを判断する観点に「アクセシビリティ」と「ユーザビリティ」がある。両者の考え方の大きな違いは、サービスの対象者にある。ユーザビリティが「(そのサービスで）想定する利用者」を対象とする一方、アクセシビリティは「すべての人」が対象である。したがって、多様性を尊重する意味合いが強いのはアクセシビリティといえる。

技術分野の製作・制作活動において、生徒が生活の中から自分だけにとっての問題を見出し、自分だけに役立つ物を製作するような場合は、生徒の構想にアクセシビリティの観点が入らない可能性がある。そのため、製作・制作活動で多様性に配慮させたい場合は、設計に入る前の段階から教員が製作物の利用対象者に関して条件を与えたり誘導したりすることが必要になると考えられる。

技術分野の教科書にも登場する「ユーザインタフェース（UI)」は、ユーザビリティを高めるための工夫として、文字やボタン等の色・形状・配置、文字の入力方式（ドロップダウンリストから選択するか、音声入力するか）等に表れる。また、誰でも扱える UI にすることで、そのサービスは「アクセシビリティが高く、多様性に配慮した UI になっている」というような言い方ができる。

UI とセットで扱われることが多い「ユーザエクスペリエンス（UX)」は「円滑に操作でき、デザインも素敵でもっと操作したくなる」といったアプリケーションの品質や見た目のことに加え、「困ったときのサポートが充実している」というようなサービスを利用した際に得られる体験が全般的に含まれる言葉である。

UI と UX を検討する場面を技術分野の学習過程（学習指導要領 p.23）に対応づけると、問題発見・課題設定の場面で UX を、設計・計画、製作・制作の場面で

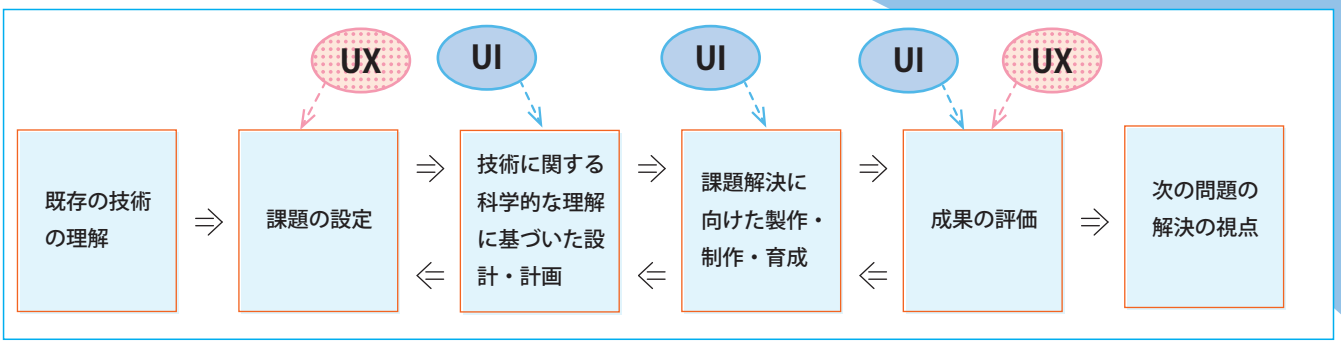


図１　技術分野の学習過程と UI / UX の関係（例）

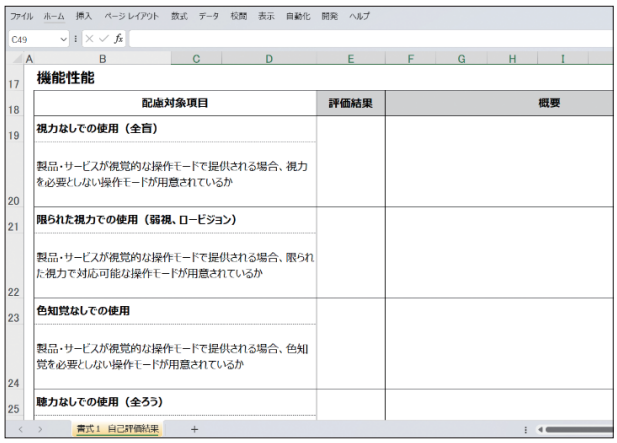
は UI を意識することになると考えられる。そして、評価・改善の場面では、UI/UX 両方の観点で検討していくことが望まれる（図１参照）。

4　アプリケーション開発を伴う授業で多様性に配慮させる工夫

アプリケーション開発を伴う授業の中で、生徒にアクセシビリティの観点を考慮させる場合は、例えば総務省が Excel ファイルで提供している「情報アクセシビリティ自己評価様式」（図２参照）が役立つだろう。この評価様式では「色知覚なしでの使用」「発話能力なしでの使用」といった配慮すべき事項が一覧化されている。こうした観点を示すことで、さまざまなバックグラウンドをもつ利用者の存在に気づかせることができ、制作したアプリケーションについて生徒同士で評価させるような活動に展開することも考えられる。

また、この評価様式を作成するもととなっている JIS 等の規格が一覧化されたファイルも提供されている。このファイルでは、例えば「スクリーン又はディスプレイの一部分を強調する（又は拡大する）機能が提供されることが望ましい」等、観点が具体的に記されている。中学生には難解な表現が多く、教員による意訳が必要であるが、アクセシビリティを改善する方法を具体的にイメージすることに役立つと考えられる。さらに「規格」は技術分野の D 以外の内容で扱われるため、他の内容と関連づけつつ「私たちが普段何気なく使用している Web サイトやアプリケーションにもさまざまな配慮がなされている」というような、生徒にとっての新たな気づきにつながることも期待できる。

最後に、アプリケーションの開発現場では、アクセシビリティ含め Web サイトの良し悪しを評価し数値化するチェックツールが利用されることがある。例えば Google Chrome 用の無料の拡張機能「Lighthouse」



機能性能

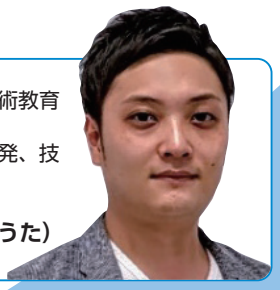
配慮対象項目	評価結果	概要
視力なしでの使用（全盲） 製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、視力を必要としない操作モードが用意されているか		
限られた視力での使用（弱視、ロービジョン） 製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、限られた視力で対応可能な操作モードが用意されているか		
色知覚なしでの使用 製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、色知覚を必要としない操作モードが用意されているか		
聴力なしでの使用（全ろう）		

図２　情報アクセシビリティ自己評価様式（一部抜粋）

（Google 社）は、アクセシビリティを 100 点満点で評価した結果や、コード内の修正すべき箇所を示すツールである。Lighthouse は、開発者向けである上に英語表記のため中学生には難解であるが、アクセシビリティやユーザビリティを高めるために、実際の開発者がどのように Web サイトを修正・改善しているかを示す一例として参考になると考える。

参考：
文部科学省「中学校学習指導要領解説技術・家庭編」開隆堂出版、2018
総務省：「情報アクセシビリティ自己評価様式」、https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/b_free02.html
Google「Lighthouse（chrome ウェブストア）」、https://chrome.google.com/webstore/detail/lighthouse/blipmdconlkpinefehnmjammfjpmpbjk/related?hl=ja

国立大学法人高知大学教育学部技術教育コース／科学技術教育コース助教
専門は教育・学習支援システム開発、技術教育など。
福谷 遼太（ふくたに りょうた）



◀ Web 版はこちらへ

KGK 小学校家庭・家庭分野

教育の目

生活変革者を育てる家庭科

1 家庭科なんて要らない!?

現代の家庭科は、様々な個性やライフスタイルをもつ人たちの人権を尊重し、共にかかわりながら生きることについて問う。

- 子どもは一人で大きくなれる？
- 高齢者を支える地域活動には、誰がかかわっているの？
- ケガや病気で働けなくなった時、お金の心配をしなくてもいい仕組みとは？
- レインボーフラッグが伝えるメッセージは何？
- 名字を変えたくない人が大切にする生き方とは？

家庭科は、年齢、性別、国籍、障がいの有無等がハードルにならない、誰もが自分らしく生きられる社会の在り方を、日常生活を切り口に科学的かつ実践的に学ぶ教科なのである。

ところが、筆者は最近、高校生にこう言われたことがある。「今どき料理とか裁縫とか古いですよ。私は家政学部には行きませんね。」（女子）「大学で家庭科なんてやる必要があるんですか？」（男子）。

聞けばこういうことだ。料理なんかしなくても、スーパー、コンビニで何でも買える。服だって作るより買った方が安い。これからの女子は家庭科よりIT系かも。会社で役立つ資格が取れる大学が良いと親も言っているし･･･。かれらは筆者に決して挑発や悪ふざけで言ったのではない。真剣に自分の思いを伝えてくれたのである。

かれらの言葉から、筆者はこんなこと考えずにはいられない。それは、現代社会が私たちの個人・家庭生活の営みを、「大したことない」「なくても困らない」「誰でもできる」ものと捉えてきたのではないか、あるいは「見えないもの」として扱ってきたのではないか、ということである。

マンガ家の田房永子氏は、上野千鶴子氏との対談で、私たちが暮らす社会は「A面」（会社・学校等）と「B面」（妊娠・出産・家事・ケア等）に分かれると述べ、それをイラストで表現した（上野･田房, 2020）（図1）。人間は、本来、A・B両面を行き来しながら生きている。しかし生産性・効率性優先型社会は、A面に男性、B面に女性を位置づけ、B面を勝手に排除あるいは無視してこなかったか。そのような社会では、私たちが食べたいものを自分で調理したり着続けたい服を繕ったりすることも、子どもの世話をしたり遊んだりすることも、近所の人と挨拶をしたり回覧板を渡すことも、「無駄」なのであろう。

そんな社会は本当に豊かな社会なのか。

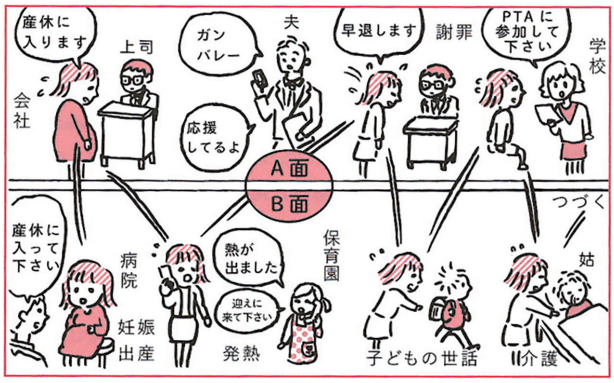


図1　生活のA面とB面（上野・田房、2020より）

2 家庭科だからできること

○生活体験を根拠に様々な人々の抱える課題に気づく

家庭科では、A・B両面を行き来する私たちの生活について、家族・家庭生活、衣食住、消費生活・環境等、幅広く学ぶ。そして学習者は、そこで多様な人々の暮らしについて考えたり、実際に生活体験をしたりするからこそ、見えてくることがある。

「人間がケアを必要とするのは、乳幼児期と高齢期だけじゃない」「お金も大事だけど、健康に暮らすためには料理も洗濯も団らんも必要」「いくら親

密な間柄でも、暴力は許されない」

そこで学習者は、家庭科で身につけた目線（安心・安全・快適・平等等）で改善策を提案し、家庭・地域・社会の仕組みを変えてきた。この点を教科として堂々と主張できる教科は家庭科以外にない。

だからこそ家庭科に携わる者は、児童・生徒一人ひとりがそのようなことができる力をもっていることを、授業を通してかれらに伝え、社会はあなたの体験と考えと行動で変わるのだと、絶えず語り続ける義務と責任があるだろう。

○生活体験を基に社会をアップデート

すべての人が安心して暮らせる社会の実現のために、家庭科ができることは沢山ある。例えば日常生活に潜む「無意識の偏見」をなくすことである。「男は仕事って誰が決めた？」「家事・ケアは女の仕事？みんなの仕事だよ。」（図２）

図２　無意識の偏見（市川房枝記念会、2023 より）

こんな話し合いもできるはずだ。「社会には、赤ちゃんも高齢者も、障がいのある人も、外国から来た人もいるね」「みんなそれぞれの暮らしや考え方があるね」「それぞれ、いろんな困りごとも抱えているよ」「そういうことをわかって、みんなの声を社会に届けてる人ってどんな人？」「どんな人だったっけ？」「いろんな人、いたっけなぁ…」

3　生活変革者を育てる

今話題の AI は、どうすればよりよい社会になるか、聞けば答えてくれる。しかし AI には大切な誰かを想ってご飯を作った経験もなければ、放っておけない大事な人の相談に、自分事としてのった経験もない。そんな AI と、家庭科をきちんと学んだ児童・生徒が描く社会が同じはずがない。

私たちは家庭科を学べば生活することの大切さ、面白さ、奥深さが分かる（もちろん大変さもある）。

しかし私たちが、大切さ、面白さ、奥深さを感じながら生活できるためにはある程度の時間的、精神的、経済的な余裕も必要である。もしも現代社会が、そのような余裕を私たちに与えず、その余裕のなさを自己責任だと宣うならば、家庭科はそんな社会に NO（持続不可能）を突きつけよう。

共通テストに出題されなくても、主要教科でなくても、それがどうした。家庭科に携わる我々は、多様な人々の生き方を学び、生活の実体験を通して個人・家庭生活の意義と価値を理解し、誰もの尊厳を守る社会に向けて共創の挑戦をやめない生活変革者を育てているのである。

高知大学教育学部附属特別支援学校での出前授業

<引用・参考文献>
・上野千鶴子・田房永子「上野先生、フェミニズムについてゼロから教えて下さい！」大和書房、2020
・公益財団法人 市川房枝記念会 女性と政治センター「すし P リーフレット」https://www.ichikawa- fusae.or.jp/suship/
※「すし P」は、市川房枝記念会にて無料配布中（2023 年 7 月現在）

国立大学法人高知大学教育学部教授。博士（生活環境学）。高知大学教育学部附属特別支援学校の家庭科の先生方とジェンダーの共同授業も行う。

森田 美佐（もりた みさ）

◀ Web 版はこちらへ

KGK 小学校家庭

実践事例

パネルシアターで学ぶ家族の多様性

東京都杉並区立
桃井第四小学校主任教諭
齋藤 麻由子
（さいとう まゆこ）

1 はじめに[1)]

多様性（ダイバーシティ／diversity）とは「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在すること」です。ダイバーシティという言葉は、人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、性的指向、価値観などの多様性から、キャリアや経験、職歴、働き方といった職業生活における多様性まで幅広いジャンルで用いられています。

多様性には「表層的」「深層的」の２つの種類があり、外見で見分けられる生得的な特徴は「表層的ダイバーシティ」、外見からはわかりづらい内面的な特徴は「深層的ダイバーシティ」と呼ばれます。表層的ダイバーシティは「人種」「国籍」「性別」「年齢」など、深層的ダイバーシティは「経験」「スキル」「価値観」「文化的背景」などが具体例として挙げられます。

2 教師が「多様性に配慮した指導をする」

開隆堂の教科書では、子どもの認知特性の違いや特別支援教育の観点などから、だれもが理解しやすいような配慮や工夫が随所になされています（https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2020/katei/pdf/shoka_tokushi.pdf）。

外国人等の児童に配慮すべき点についても詳しく記載されています[2)3)4)]。

調理実習では、外国の食文化や左利きの児童にも配慮した実習のあり方[5)]、色弱の児童に配慮した教材の示し方（黄色を重ねない）、食物アレルギーをもつ児童への対応とアレルギーへの理解[6)]を促進する学びの場の提供などが挙げられます。

3 子供たちが「多様性に気付く」

５年生最初の題材「家族の生活再発見」ではガイダンスの意味合いや、自分の生活を見つめ直し、自分を支える家族にも目を向けることになります。そして今まで自分の家族のことしか見えていなかった児童がいろいろな家族形態があるのだという「多様性」に初めて気付く題材です。よく、サザエさん一家などで紹介されていますが、ここではパネルシアターで作成したものを紹介します。仕事には、お金を稼ぐ仕事のほかに家族の生活を支える家での仕事があることを、教科書のページから家庭にはどんな仕事があるかを考えさせます。その家庭の仕事は誰が行っているかあえて考えさせ、パネルシアターで展開します。パネルシアターはその都度家族構成をつけたり外したりでき、泣いているお母さんを裏返すとニコニコしてる場面に変わり、視覚的に多様な家族について考えることができます。そして６年生の最後の題材「持続可能な社会を生きる」につながります。単に「近所の人との暮らし方」ではなく、今の自分の生活は自分のものだけでなく、周りの生活とつながっていること、性別、年齢、国籍などが多様な人々が生活する中で、みんなが喜ぶ、みんなに役立つ、みんなが気持ちよく生活できるためのルールやマナー、関わりのもち方、協力の仕方を学ぶこと、は遠い世界にもつながっている「多様性」の気付きにつながります。

〈引用・参考文献〉
1）ミライイ HP、https://www.hrpro.co.jp/miraii/post-909/
2）「学習指導書　指導展開編（上下巻）」 p80-85
3）「指導者用デジタル教科書 DVD-ROM 編」収録『外国籍児童学習支援』
4）2020 年度小学校家庭科教科書のご案内、kairyudo.co.jp
5）「わたしたちの家庭科５・６」 p132・133
6）「学習指導書　入門編」 p52・53

1

T：あら、こんなところにおうちがある、チャイムならしてみよう

C：なんだなんだ！

2

T：ピンポーン、
T：はーい、私、ももこ５年生よ。

C：同じ学年じゃん！

3

T：私の家族を紹介するね。私は３人兄弟なの。

C：僕と同じだ！

C：私は一人っ子！

4

T：おじいちゃんとおばあちゃんも一緒です。

C：私もおばあちゃんと住んでる。

C：僕のうちと違う。

5

T：最後が私のお父さんとお母さんよ。お母さんはアメリカ人なの！

T：なぜお母さんは泣いてるのでしょう？

C：お母さん外国人なんだ！

C：家の仕事をほとんどやっていて誰も手伝ってくれないからだ！

C：お母さんが大変だからお手伝いしなくっちゃ。

C：○○さんちと同じだ！

C：なんでお母さん泣いてるんだ？

C：私はけっこう手伝っているよ。

C：うちはおばあちゃんがほとんどしてる。

T：ももこさんの家は７人家族でしたが、家族構成は色々ですね。日本では核家族と言ってお父さんお母さんと子供、という家族構成が増えています。また、訳があってお父さんやお母さんがいない家庭もあります。このように家族の形はさまざまです。また仕事も外に働きに出ていたり、家でテレワークしていたり、お店をやっていたりとさまざまです。ももこさんちはお母さんが主に家の仕事をしていましたが、これも決まっているわけではありません。家族の一員として家の仕事ができるよう家庭科を学んでいきましょう。

◀ Web 版はこちらへ

KGK 技術分野 実践事例

生徒と教員 二つの視点から多様性の尊重について考える

東京都江戸川区立
瑞江第二中学校教諭
森 剛徳
（もり たけのり）

1 はじめに

多様性を尊重する教育のテーマについては二つの視点があると考える。

視点① 生徒が技術の授業を通して多様性を尊重する姿勢を身につける

視点② 教員が生徒に対して授業において多様性を尊重する

その上で私が取り組んでいる実践例を紹介する。

2 実践例【「A材料と加工の技術」で】

本校では生徒の保護者や兄弟・姉妹などの意見も取り入れた設計・作品づくりを行っている。その過程の一つにある「生徒と保護者とのグループワーク場面の設定」が視点①にあたる。

開隆堂教科書 P.44 以下の問題解決の流れが基本だが、構想や設計の段階で夏休みを挟んで、保護者（家族）と一緒に家の中の収納等に関する問題を発見してもらい、保護者（家族）の意見や要望を取り入れた問題解決が図れる作品を設計（※1）させている。

保護者（家族）とともに問題を発見し、問題を解決するための製作品を考えることで、例えば同じ本立てでも「自分」にとって使いやすい形状や大きさと「おじいちゃん、おばあちゃん」にとって使いやすい形状や大きさでは異なることに気づくだろう。

また、「誰にとって問題なのか」を明確にし、「誰が使用するのか」を考えて製作品を設計することが大切であることに気づくはずである。

上記のような生徒と保護者（家族）のグループワークを実施することにより、多様性を尊重する姿勢を身につけさせる一助としている。

授業を進めるうえで視点②にあたるのが「多様な資料や工具等の用意」「個に応じた題材（課題）の設定」の２点だ。

問題解決では、各自が問題を見つけ解決する設計をするため、使用する工具は生徒ごとに異なる。生徒の設計を製作品として実現させるには、さまざまな工具等を準備しておくことが大切だ。

また、自力での設計が難しい生徒への対応も必要だろう。事前に全生徒に複数のお手本設計図を配布し、どうしても設計が難しいと本人が判断した場合は「そのまま写してくるだけでもよい」としている。

難易度の高いことに取り組むことが難しい生徒がいても、個々の生徒に合わせた難易度で学習を進めていけばよいと考えている。教師は効率的な授業を行うために、多様な生徒を同一のレベルに合わせようとしてしまうことがある。もちろんそれも実際は必要であるのだが、個々の生徒の力を伸長することを第一とした場面を意識的に作ることも大切にしたい。

※1　保護者（家族）とともに考えることによって、生徒だけでなく、家族も完成を楽しみにしてくれる。家庭でも作品作りの進捗状況等を話題にしてもらうことで生徒のモチベーションの向上にもつながっている。

3 実践例【他教科や特別活動等の取り組みを技術の授業で話題にする】

教科を越えた取り組みの中にも視点を当てはめることができる。例えば、本校で推進しているLGBTQ 等に関する教育に関連して、視点②として「トレードオフの関係やプラス面、マイナス面を考える場面を設ける」ことを実践している。

本校では、制服に「男子用」「女子用」を定めないほか、出席簿や教室の班、体育も男子、女子を分けていない。その延長で「男子のイメージカラーは青、女子のイメージカラーは赤ということもやめよう」ということになり、トイレの表示も赤や青ではなく「黒」に統一した。

このことについて、技術の授業でトレードオフの説明をする際に次のように問いかけを行った。「LGBTQ の観点からは黒に統一したことはよかっ

た。でも、視力の低い生徒にとってはどうなのかな」

また、計測と制御の授業の導入部分では特別活動で扱った点字ブロックを引き合いに出し、生徒に次のように投げかけた。

教師：黄色い点字ブロック、景観的にはどう思う？

生徒：場所にもよるけどあまりよくないかも

生徒：目立たない点字ブロックがあればいいのに

教師：景観に配慮した目立たない色の点字ブロックもあるよ。でも何か問題点はない？

生徒：視覚障がい者（全盲以外）にとって見づらいかも

生徒：目立たない分、凹凸をはっきりさせれば（高低差を大きくすれば）わかりやすくなるかも

生徒：凹凸の深い点字ブロックがあればいい

教師：小さな子供や足の悪い人、車いすの人にとってはどうかな？（生徒に揺さぶりをかける）

生徒：足が引っかかって危ないかも

教師：計測と制御の技術で解決できる方法はないかな？

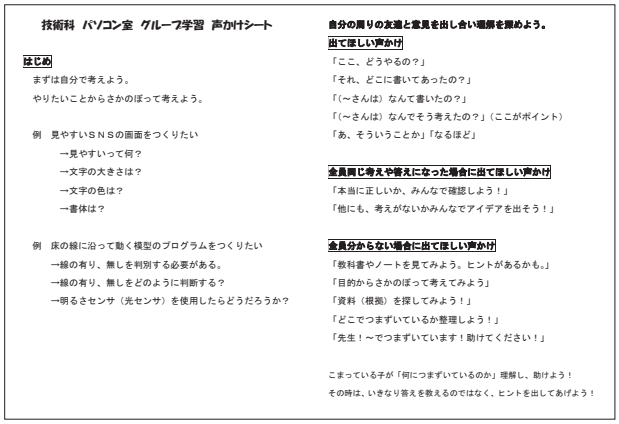
このようなことを考えさせると、ブロックだけにこだわらず、「GPS を利用した道案内ロボットがあればいい！」など全く新しい発想が出てきた。様々な立場や状況の人がいることに気づかせ、配慮させながら、計測と制御の技術が、人々の多様性を尊重するためにも役立つことを伝えることができた。

4 実践例【グループ学習 声かけシートの活用】

視点①の実践として「生徒どうしのグループワークの活性化」を目的に、声かけシートを活用している。

A 材料と加工の技術の例でも取り上げたが、他者と対話しながら課題を解決する活動は、様々な考え方に触れるチャンスだ。多様性を尊重する姿勢を身につける上で、「多くの考え方に触れながら、課題を解決することを繰り返す」ことが有効である。

しかし、そのような活動は時間がかかる上に、子供たちがそのような経験が少ない場合、話し合いなどの活動がなかなかスタートしないことが多いのではないだろうか。また、特別教室で行う授業においては、教室での班（グループ）と異なるために、グループ活動が軌道に乗るまで時間がかかることがある。そこで、「グループ学習　声かけシート」を活用している（図 1 参照）。このシート自体は「深い学び」に直結するものではないが、話し合いなどが軌道に乗るまでの時間短縮に役立っている。



技術科　パソコン室　グループ学習　声かけシート

はじめ

まずは自分で考えよう。
やりたいことからさかのぼって考えよう。

例　見やすいＳＮＳの画面をつくりたい
→見やすいって何？
→文字の大きさは？
→文字の色は？
→書体は？

例　床の線に沿って動く模型のプログラムをつくりたい
→線の有り、無しを判別する必要がある。
→線の有り、無しをどのように判断する？
→明るさセンサ（光センサ）を使用したらどうだろうか？

自分の周りの友達と意見を出し合い理解を深めよう。

出てほしい声かけ

「ここ、どうやるの？」
「それ、どこに書いてあったの？」
「（～さんは）なんで書いたの？」
「（～さんは）なんでそう考えたの？」（ここがポイント）
「あ、そういうことか」「なるほど」

全員同じ考えや答えになった場合に出てほしい声かけ

「本当に正しいか、みんなで確認しよう！」
「他にも、考えがないかみんなでアイデアを出そう！」

全員分からない場合に出てほしい声かけ

「教科書やノートを見てみよう。ヒントがあるかも。」
「目的からさかのぼって考えてみよう」
「資料（根拠）を探してみよう！」
「どこでつまずいているか整理しよう！」
「先生！～でつまずいています！助けてください！」

こまっている子が「何につまずいているのか」理解し、助けよう！
その時は、いきなり答えを教えるのではなく、ヒントを出してあげよう！

図 1　グループ学習 声かけシート

5 まとめ

技術分野の授業で、多様性を尊重し育むために私が意識していることを整理すると次のようになる。

①課題の解決策について、多面的に検討するグループワークの促進
②個に応じた題材（課題）の設定
③多様な資料や工具等の準備
④教科・領域等横断的なカリキュラムマネジメント

以上である。現場では常に様々な「〇〇教育」が求められる。教科の本質を大切にして、無理なく授業に取り入れていくことが肝要である。

生徒作品

◀ Web 版はこちらへ

KGK 家庭分野 実践事例

これまでの授業を「多様性」という視点でとらえ直してみる

東京都国分寺市立
第二中学校教員
筧 敏子
（かけひ としこ）

1 はじめに

本稿を書くにあたり、特集テーマである「多様性」を、私自身はどのように考えて家庭科の授業をしてきたのだろうかと悩んだ。「多様性」といっても、その内容は広く、深い。自身の力量不足もあり、「家庭科の授業においては、これとこれです。」というものを持ち合わせていない。そこで、私の中のおぼろげな「多様性」のイメージと共に、教科書（開隆堂、家庭 703）の目次を改めて見てみた。

すると、「多様」という文言が入っている項目があった。「多様な人びとが暮らす地域（p58）」、「多様な人びとと共に生きる（p280）」というのを見つけた。しかし、それ以外にも、私の中の「多様性」のイメージと合うものが、たくさんあった。表紙をめくるとすぐに、５枚の写真（下図）がある。そこからは、世代（高齢者や幼児）、人種や民族、ジェンダー、障がいの有無、家族の形などに関する多様性が読み取れる。これらの視点をもとに、これまでの授業の一部を、とらえ直しながら事例紹介をしてみたい。

教科書掲載の５枚の写真

2 実践事例

事例１：地域に暮らす高齢者（中学３年生）

高齢者の学習のひとつとして、認知症サポーター養成講座を行っている。地域包括センターと連携し、認知症サポーターキャラバンの方に来校していただいた。

認知症についての理解を深めるとともに、地域に暮らす高齢者とのかかわりについてリアルに学んだ。キャラバンのメンバーに高齢の市民も参加していたので、生徒は様々な高齢者がいることにも気づいた。地域には、多様な高齢者がいて、世代によっても多様な暮らし方やかかわり方があることを知るきっかけになり、「多様性」を理解することにつながっていくと考えられる。

養成講座写真①：寸劇のひとこま

認知症サポーター養成講座の生徒の感想より

- 認知症にもステップがあり、行動一つ一つにもいろいろ原因があって、家族の対応の仕方によっても、症状が加速してしまうことを知れた。
- 認知症の方に寄り添って、支え合って、対等な関係を築いていくことで、認知症の方の不安をかき消せて、安心して生活してもらえるのかなと思いました。
- 祖母が近くに居るんですけど、もっと外に連れてったりして、予防したいです。
- 「明日の記憶」という本を読んだことがあるが、認知症の人の気持ちを考えること、本人の感じる不安や罪悪感というものを今日の授業でも、その本でも感じた。本人がどう考えているのかをしっかり理解して対応したいと思った。

養成講座写真②：個別の質問にも丁寧に答えるスタッフ

白杖体験動画のひとこま

事例２：誰もが住みやすい環境（中学２年生）

住生活の学習の終わりの方で、安全対策や災害への備えについてのレポートに取り組んだ。それには、安全対策が必要な幼児・高齢者・障がいのある人の特徴を理解する必要がある。一つの手段として、視覚障がい疑似体験用のゴーグルを使ったり、白杖体験を取り入れたりした。白杖体験は、地域の NPO 法人の方に動画を作成していただいた。

動画視聴後、白杖体験を行った。視覚障がいと言っても、同じように見えにくい（または見えない）のではなく、様々な状況があることに生徒たちは、気づいていた。疑似体験ではあるが、自分の感覚や声のかけ方などから、相手の人にあわせた対応をすることを学んでいた。これも、「多様性」を理解し尊重することにつながっていくのだと感じた。

白杖体験の生徒の感想より

- 今回は知っている場所を歩きましたが、知らない道だったら、もっと難しいと思います。ガイドヘルプもどうやったら歩きやすいかなど、すごい気を使いました。安心して歩けるように心がけました。
- 白く濁っているだけでも、かなり見えにくいことが分かりました。動画を見て、白杖を使っている人のこともよくわかりました。
- 見えない体験より、ガイドヘルプの方が難しかった。今まで、目の見えない人を見かけても、驚かせてしまうかと遠慮していたが、これからは困っている人がいたら、声をかけようと思った。
- 段差がとても難しい。スロープの役割が重要だと気づいた。介助の人がいないと、とっても移動が怖い。声をかけてもらうのが重要だ。

安全対策や災害への備えについてのレポートは、住まいの中だけでなく、地域でよく利用する場所や、職場体験先にも調査対象を広げた。実際に工夫されている点が具体的に書かれているレポートが多かったし、多様な人びとが利用する地域に目を向けることもできた。（安全対策のレポート：WEB 版に掲載）

3 おわりに

本稿で紹介した事例は、必ずしも「多様性」そのものを題材にしたものではない。多様な家族の暮らし方や、世界の食べ物・衣服・住まいに見られる多様な生活文化、ジェンダーなどについての事例ならば、読者の方々に伝わりやすかったかもしれない。しかし、悩みながらも、次のように考えることができた。

家庭科は、「多様性」にあふれている実際の生活を学習対象としている。それゆえに、どの内容を扱うにしても、「多様性」の理解と尊重に向き合うことになる。また、現行の教科書にあるように、わたしの興味・関心から学習に入ろうとすることは、一人一人の考え方を大切にすること、言い換えれば「多様性」の尊重につながるのだといえる。こうしてみると、家庭科の学習は「多様性」の畑であると言ってもよく、その畑の作物が十分に生育するように「多様性」の理解と尊重ができるような授業を作っていきたいと思う。

＜参考文献＞
- KGK ジャーナル 411 号「個人の発想を大切にし、多様性を育む授業づくり」小林美礼
- 文部科学省「2030 年の社会と子供たちの未来」
- ビズクロ「ダイバーシティ教育とは？子供の多様性を尊重する重要性と具体的な実践例」、https://bizx.chatwork.com/diversity/education/

◀ Web 版はこちらへ

インフォメーション

研究大会情報

●第 60 回 全国小学校家庭科教育研究会 全国大会

日 時　令和 5 年 10 月 27 日 (金)
会 場　公開授業　横浜市立東小学校／横浜市立桜岡小学校
　　全 体 会　テンネー記念ホール (関東学院大学 横浜・関内キャンパス 2 階)

●令和 5 年度 全日本中学校技術・家庭科研究会 全国大会 / 各地区大会

地区名	都道府県名	開催日	会　場
北海道	(道南)	全体会・分科会 10 月 13 日 (金)	全体会　函館白百合学園中学高等学校 分科会　2 会場 2 分科会
東北	秋田県	全体会・分科会 10 月 27 日 (金)	全体会　湯沢市文化会館 分科会　2 会場 7 分科会
関東・甲信越	群馬県	全体会・分科会 11 月 2 日 (木)	全体会　高崎市立寺尾中学校 分科会　8 会場 8 分科会
東海・北陸 全国大会	静岡県	全体会　11 月 9 日 (木) 分科会　11 月 10 日 (金)	全体会　プラサヴェルデ 分科会　8 会場 8 分科会
近畿	大阪府	全体会・分科会 11 月 22 日 (水)	全体会　豊中市立文化芸術センター 分科会　4 会場 6 分科会
中国・四国	島根県	全体会　10 月 19 日 (木) 分科会　10 月 20 日 (金)	全体会　島根県民会館 分科会　4 会場 8 分科会
九州	熊本県	全体会　11 月 17 日 (金) 分科会　11 月 16 日 (木)	全体会　熊本ホテルキャッスル 分科会　4 会場 4 分科会

商品案内

好評発売中

新版
省エネ行動スタートBOOK

■監修　松葉口玲子／三神彩子　　■定価：1,760 円 (本体 1,600 円)
■ A4 判　80 ページ　オールカラー

- 世界的なエネルギー価格の高騰や、「気候危機」が喫緊の課題となる今、各種統計資料をアップデートして、『省エネ行動スタート BOOK』をリニューアルしました。
- SDGs の学びに役立つ 17 のワークシートには指導案がつき、さらにアクティブ・ラーニングのポイントが示されています。

KGKジャーナル
Vol.58-3 (通巻 412 号)
非売品

令和 5 年 7 月 10 日印刷　令和 5 年 7 月 20 日発行　編集兼発行人　岩塚　太郎
発行所　開隆堂出版株式会社　〒 113-8608　東京都文京区向丘 1-13-1
☎ (03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6116 (編集)
https://www.kairyudo.co.jp/

開隆堂出版株式会社
本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1　☎03 (5684) 6111

北海道支社　〒 060-0042 札幌市中央区大通西 11-4-21　52 山京ビル 7 階　☎ 011 (231) 0403
東北支社　〒 983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-3-10　仙台 TB ビル 4 階　☎ 022 (742) 1213
名古屋支社　〒 461-0004 名古屋市東区葵 1-15-18　オフィスサンナゴヤ 9 階　☎ 052 (908) 5190
大阪支社　〒 550-0013 大阪市西区新町 2-10-16　☎ 06 (6531) 5782
九州支社　〒 810-0075 福岡市中央区港 2-1-5　FYC ビル 3 階　☎ 092 (733) 0174